

日本遠洋旋網漁業協同組合

○現在実施している又は今後実施予定の取組

1. 水産物の消費拡大や地域資源の活用、課題解決に向けた取組

当組合ではコープ九州事業連合と連携の下、組合の事業拠点である長崎県松浦産地市場において、九州・沖縄各県の単位生協様との産地交流会を継続実施しています。交流会では各組合員様へ組合の取組み説明（資源管理TAC・MELCOC・CSR活動（Jクレジット・営農型太陽光発電・漁網リサイクル））や、試食を交えての意見交換を実施し商品開発にも役立てています。その成果もあり2024年10月には生協初となる水産産直商品を販売することとなりました。

商品名「長崎県松浦産 産直サバフィレ」

「産直三原則」※生協が考える産直

1. 生産地と生産者が明確であること
2. 栽培、肥育方法が明確であること
3. 組合員と生産者が交流できること



産直3原則にもある交流を進めることで、顔の見える関係性を築き、常にコープ九州組合員さまのニーズに応え続ける製品づくりを目指しております。

2 低・未利用魚（サバ・ブリ）を有効活用した新たな加工製品化

日本遠洋旋網漁業協同組合の組合員においては、東海・黄海海区を中心に、アジ・サバ・イワシ・ブリ類等を主体とした漁獲が行われているが、とりわけサバ類においては、小サイズのほとんどが養殖餌料用に利用され、鮮魚及び加工向け原料魚と比較し、価格面で低位となっている現状がある。また、当該海域にて漁獲されるブリ類は日本海にて漁獲される脂ののったブリと異なり、産卵後で脂が薄いなどの理由から、鮮魚用途に向かず価値が低い魚種となっており、当該2魚種の魚価安定及び生産性の向上等を図るために、コープ九州など販売業者と連携し、当該原料を活用した新たな加工製品の商品化ならびに販売体制の構築・拡充を行った。

